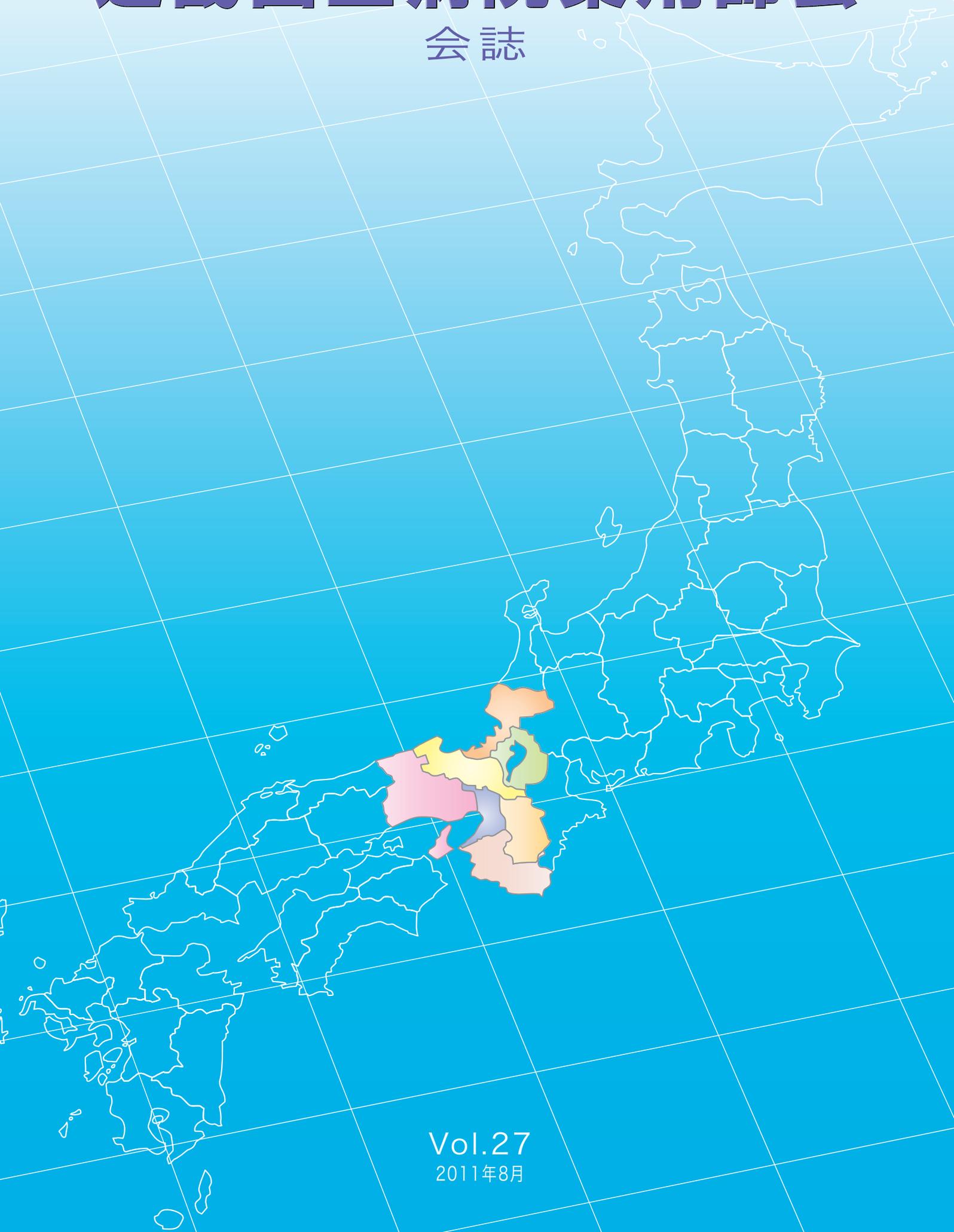


# 近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.27  
2011年8月

# 目 次

薬事専門職挨拶.....	2
	薬事専門職 山崎 邦夫
提言 「変化に対応できる進化する薬剤師に」 .....	4
	舞鶴医療センター 土井 雅由
薬剤科紹介.....	5
	奈良医療センター 森口 真帆
平成 23 年度学術集会報告.....	8
	紫香楽病院 繁野 耕司
平成 23 年度教育研修委員会主催講演会報告.....	9
	兵庫中央病院 石正 英良
病院薬剤師になって.....	10
	姫路医療センター 富島 公介
	神戸医療センター 白川 祥実
薬品管理小委員会東和薬品工場見学報告.....	12
	和歌山病院 南山 啓吾
地区会報告.....	14
編集後記.....	15

## 薬事専門職を併任して この半年・・・

近畿ブロック事務所 医療課  
薬事専門職 山崎 邦夫

平成 22 年 11 月、中多前薬事専門職の後任として近畿ブロック事務所医療課薬事専門職（併任）を拝命いたしました。突然のことで戸惑うことばかりの毎日でしたが、皆様のご協力、ご支援のお陰を持ちまして、既に 10 ヶ月が過ぎようとしております。

11 月着任早々、平成 22 年度採用候補者登録選考試験結果を踏まえた 23 年度人事が待ち受けておりました。私自身、施設の人事に関する経験もなく、薬剤科長在職半年あまりでの併任でしたので、非常に厳しい状況の日々でした。特に 22 年度、23 年度は新卒の薬剤師が輩出されない中での、増員・中途退職者・病院間異動等への人事対応でした。結果的に、増員が認められたにもかかわらず、数施設にはブロックからの薬剤師紹介ができず、施設で対応していただく事となりました。未だ欠員の施設もあり大変申し訳なく思っております。

そのような状況の中、国立病院機構の薬剤師定数につきましては平成 16 年度定数（CRC 含む）924 人であった薬剤師数も、その後、年々増加し平成 22 年度は 1,167 人となりました。今年度も 60 人余りの増員が認められました。近畿ブロックにつきましては大阪医療センターの 14 名の定数化を含む 21 名の増員が認められました。これらの定数増は、平成 20 年度の診療報酬改定以来、外来化学療法加算・緩和ケア診療加算・がん診療連携拠点病院加算・栄養サポートチーム加算等、チーム医療に我々薬剤師が積極的に参画し、意欲的に業務に取り組んできた結果であると確信しています。

また、来年度は薬学 6 年制移行後、初めての卒業生輩出となることから、近畿ブロック事務所が主体となり、多くの会員の先生方のご協力を頂きながら、各大学及び民間主催の就職説明会に積極的に参加し、より質の高い薬剤師を確保するための活動をしてきました。

日付	イベント名称	開催地	主催者	参加者
H22.11.23(火)	日経 Navi2012 「薬学系学生のための Career Forum」	大阪	(株)アイスコ	172/150 名
H23.2.26(土)	病院就職ガイダンス	大阪	近畿大学	90 名
H23.2.28(月)	薬学部内会社説明会	兵庫	武庫川女子大学	94/150 名
H23.3.10(木)	新 5 年次向け就職ガイダンス	大阪	摂南大学	256 名
H23.4.7(木)	職種紹介学内企業セミナー	大阪	大阪薬科大学	90/280 名
H23.4.10(日)	優良薬事企業合同セミナー 「めでいしーんフォーラム」	大阪	(株)ジェイ・ブロード	109/349 名
H23.4.16(土)	学内合同企業説明会	兵庫	神戸学院大学	64/141 名
H23.4.20(水)	就職ガイダンス	大阪	大阪大谷大学	150 名

(近畿ブロック薬剤師募集活動についての報告より)

いずれの説明会においても盛況で、薬学生の国立病院機構への関心の高さを肌で感じとりました。現在、今年度の選考を実施している最中ですので詳細は割愛しますが、登録選考試験には、多くの応募があり、優秀な人材が確保できるものと期待しています。

来年度の増員要求につきましては、各施設より提出されたところですが、ご存じのとおり、平成 22 年度診療報酬改定では、中医協答申書（平成 22 年 2 月 12 日）附帯意見において、「薬剤師の病棟配置の評価を含め、チーム医療に関する評価について、検討を行うこと」とされています。この附帯意見に基づき、中央社会保険医療協議会は、平成 24 年度診療報酬改定で薬剤師の病棟配置を評価することについて議論しており、その結果、全国の保険医療機関を対象に調査を実施することになっています。全国薬剤部科長協議会におきましても全国国立病院協議会合同会議において「薬剤師の活用と増員（病棟配置、医療安全）」「専門・認定の手当」等について意見をだしていただき、概ね院長協議会には理解して頂いたと聞いております。

薬剤師病棟常駐化あるいは薬剤師の増員については今年が勝負の年になります。今後も、病院薬剤師の職能評価向上のために、個人個人が意欲的且つ積極果敢に業務に取り組んで頂きますよう、宜しくお願いいたします。

そして、近畿国立病院薬剤師会が小森会長中心により活性化されますと共に、会員各先生方の益々のご活躍を切に願っております。

## 「提言」

### 変化に対応できる進化する薬剤師に

舞鶴医療センター 土井 雅由

薬剤師を取り巻く環境は医療の変革と共に急速に著しく変化しています。昨年3月に「チーム医療の推進に関する検討会」の報告書で、チーム医療は我が国の医療のあり方を変え得るキーワードとした上で、「患者・家族とともにより質の高い医療を実現するためには、一人一人の医療スタッフの専門性を高め、その専門性に委ねつつも、これをチーム医療を通して再統合していく、といった発想の展開が必要」とされています。チーム医療の推進にあたっては、医療スタッフの一員たる薬剤師にも今まで以上に積極的なチーム医療への関与が求められています。これからの薬剤師は、いかに薬物療法に貢献するかが課題です。医薬品の適正使用や医薬品に関するリスクマネジメントについて、医師と違う視点で、適正な医薬品情報提供、処方監査、相互作用・副作用チェック、安全管理などトータルな視点で管理し意見具申していくことが求められます。そのためには、薬剤師としてより高い専門性が必要となり、質的向上が必要です。国立病院機構の薬剤師も多くの方が各種専門・認定薬剤師取得等に向けて日々努力されており、既に取得された先生方もおられます。その知識技能を発揮し、チーム医療に貢献されている方もおられると思います。

また、昨年からは6年制長期実務実習が始まり、まもなく6年制薬学教育を受けた薬剤師が卒業して社会に出て来ます。どれだけの実力を持って、医師をはじめ他職種からどう評価されるかは未知数です。これから彼らと比較される4年生卒の若い先生方は、6年制を卒業し国家試験に合格した高度な専門性をもつ薬剤師に負けないよう努力精進していただきたいと思います。

古い話で恐縮ですが、小泉元首相が平成13年9月の第153回国会における所信表明演説において、ダーウィンの進化論について述べています。その内容は、「いよいよ、改革は本番を迎えます。我が国は、黒船の到来から近代国家へ、戦後の荒廃から復興へと、見事に危機をチャンスに変えました。これは変化を恐れず、果敢に国づくりに取り組んだ国民の努力の賜物であります。私は、変化を受け入れ、新しい時代に挑戦する勇氣こそ、日本の発展の原動力であると確信しています。進化論を唱えたダーウィンは、『この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか？そうではない。最も頭の良いものか？そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ。』という考えを示したとされています。」と述べています。この言葉は、今の我々薬剤師に当てはまるように思います。チーム医療での薬剤師の評価や診療報酬での病棟配置の評価等この機会をチャンスに変える必要があります。変化を受け入れ、薬剤師としての新しい時代に挑戦することが薬剤師の発展につながると思います。薬剤師として生き残るために、変化に対応できる生き物（薬剤師）にならないといけないと思います。

我々も日々努力研鑽し、進化し生き残れるよう頑張りましょう。

# 薬剤科紹介

## 奈良医療センター

### <環境>

当院は奈良市の西方、世界遺産である薬師寺や唐招提寺で名高い近鉄西ノ京駅に近く、奈良を代表する絶景の地にあります。

西ノ京駅を下車し、約10分程歩くと万葉集にも登場する勝間田池が現れ、そのふもとから坂道を少し登った所が当院です。正面には勝間田池、その対岸に薬師寺、遠くには東大寺、若草山、生駒山系のすばらしい景色が広がっています。

若草山の山焼き、春の桜、満月など、四季折々には薬師寺を入れた写真を撮るため、多くのカメラマンが集まります。



### <基本理念>

私たちは質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院作りを目指します。

- ・ 正確な情報に基づいて、十分な説明を行い納得していただける医療の提供に努めます。
- ・ 安心して、受けていただける医療の安全対策の推進に努めます。
- ・ 患者様の視点に立って常に改革して医療サービスの提供に努めます。

### <概要>

平成16年4月に国立病院・療養所の独立行政法人化に伴い、国立療養所西奈良病院および国立奈良病院はそれぞれ国立病院機構西奈良病院および国立病院機構奈良病院となり、同年10月に両院は統合し、西奈良病院の地で国立病院機構奈良医療センターとして生まれ変わり、西奈良病院時代は、政策医療である重症心身障害・筋ジストロフィー・結核を中心とした神経難病・呼吸器の療養所であったのが、呼吸器系・消化器系・骨腫瘍などの悪性腫瘍疾患や脳外科などの急性疾患にも対応する機能も併せ持つようになりました。

現在は、神経・筋疾患、てんかん、重症心身障害、呼吸器（結核を含む）を主たる機能

として、さらに急性期医療に対応するため、MRI、CT等を導入し、診療機能の充実を図っています。なお、結核は奈良県下における拠点病院として、診療圏はもとより、京都府、大阪府にまで及んでいます。

また、重症心身障害（者）児、筋ジストロフィー、神経難病等の慢性疾患の診療圏についても奈良県全域はもとより大阪府、京都府、兵庫県等9県にまで及んでいます。

医療法承認病床数は、370床[一般310床（内50床休床）・結核60床]、標榜診療科は19科です。

#### <薬剤科>

スタッフは科長、主任3名、常勤薬剤師2名、非常勤薬剤助手1名の計7名で構成されています。



#### ☆調剤業務

自動錠剤分包機により定期処方の際の縦割り一包化や散薬・水薬監査システムを導入して一連の調剤システムを構築することにより、調剤の効率化や調剤過誤防止対策を行っています。入院患者様（慢性呼吸器疾患、結核、神経内科、重症心身障害者、筋ジストロフィー等）の薬については、各患者様の特性に合わせて服薬時毎の一包化を実施し、調剤後は十分な監査を行い、安全で間違いのない薬を提供しています。

#### ☆薬剤管理指導業務（服薬指導）

結核を含む呼吸器内科、神経内科、外科、脳外科、整形外科病棟で行っており、服薬の説明、服薬状況の確認、副作用のモニター等は勿論のこと、全入院患者様の持参薬の鑑別などにより、安全な薬物療法が実施できるように支援しています。

結核患者様に対しては、退院後の保健所、院外調剤薬局との連携をはかり、服薬のコンプライアンスの維持に努めています。

#### ☆注射薬調製業務

専用の無菌室での高カロリー輸液の無菌調製、安全キャビネットでの抗がん剤の無菌調製

及び化学療法レジメン管理により徹底した安全管理を行っています。

#### ☆チーム医療への参画

医療安全管理委員会、院内感染防止委員会、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チームのメンバーとして積極的にチーム医療を推進しています。また、糖尿病療養指導士の資格を持った薬剤師が、月ごとに開催される糖尿病教室に講師として参加し、患者教育に携わっています。

#### ☆臨床研究業務

臨床研究審査委員会事務局の運営、臨床試験協力者（CRC）としての臨床研究支援などで深く臨床研究業務に係わっています。昨年度は当院で初めての治験（第Ⅲ相）をスタートすることができ、今秋にはグローバル治験も始まる予定です。また、機構本部が実施する大規模 EBM 試験や第Ⅳ相試験についてもインフォームドコンセント・症例報告書の作成などで積極的に医師をサポートしています。

以上のような業務を行いながら、スタッフは各種学会の講習会等に積極的に参加し自己研鑽に努め、患者様の治療の一端を担い、安全で正確な薬の供給や情報提供を行っています。

（文責 森口 真帆）

## 平成 23 年度学術集会報告

紫香楽病院 繁野 耕司

平成 23 年 6 月 25 日（土）に KKR ホテル大阪にて学術集会  
ならびに教育研修委員会主催講演会が、会員 131 名の参加の  
もと開催された。演題は以下の通りであり、活発な意見交換が行  
われた。



### ○学術集会演題

1. 簡易懸濁法の適切な実施を目的とした院内体制の構築および院外調剤薬局との連携  
刀根山病院 竹中 裕美
2. 当センターにおける母乳育児推進に対する薬剤師の取り組み  
大阪南医療センター 村津 圭治
3. 京都医療センターにおけるプレアボイド報告事例に関する分析  
京都医療センター 黒川 央
4. イトラコナゾール投与症例における先発品と後発品間の血中濃度の比較  
南京都病院 仲村 弥栄子
5. 手術前入院患者における持参薬管理の現状と課題について  
近畿中央胸部疾患センター 水津 智樹
6. 病棟常駐化による医療安全への貢献  
神戸医療センター 竹内 智恵
7. 当院 ICT 活動における広域抗菌薬適正使用への取り組み  
京都医療センター 庾 錦
8. 循環器疾患専門病院における NST 活動の変遷と課題  
国立循環器病研究センター 平山 真秀
9. 結腸・直腸癌の FOLFIRI 療法への UGT1A1 遺伝子多型の影響  
南和歌山医療センター 山脇 未央子
10. 制吐療法強化によるがん化学療法の変化について  
大阪南医療センター 畑 裕基
11. 肝細胞癌に対するソラフェニブ投与患者の実態調査  
大阪医療センター 吾郷 祥子
12. 婦人科癌に対するパクリタキセル・カルボプラチン併用化学療法における制吐剤の  
使用実態調査  
大阪医療センター 加藤 あい
13. 24 時間持続型フェンタニル貼付剤の使用状況  
京都医療センター 小川 寛子

## 教育研修委員会主催講演会報告

兵庫中央病院 石正 英良

日 時 平成 23 年 6 月 25 日 (土) 15 : 00 ~ 16 : 55  
場 所 KKR ホテル 大阪  
参加人数 会員 138 名 一般 48 名  
講演会 (15 : 00 ~ 16 : 55)

京都桂病院におけるチーム医療

座 長 国立病院機構神戸医療センター 和田 洋忠先生

演 題 「チーム医療の概念とポリシー」

同志社女子大学薬学部臨床薬学教育研究センター准教授 中西 弘和先生

演 題 「血液内科におけるチーム医療」

社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院薬剤科 土手 賢史先生

演 題 「心臓血管センターにおけるチーム医療」

社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院薬剤科 野崎 歩先生

近畿国立病院薬剤師会業務検討委員会主催による学術集会と教育研修委員会主催による講演会「京都桂病院におけるチーム医療」についての 2 部構成で開催され、後半の部で京都桂病院におけるチーム医療について上記 3 演題の先生方による講演が行われた。

チーム医療の概念とポリシーの講演では、チーム医療の中での薬剤師の関わり方としては、開始当初から処方を支援して事例が発生すればそれに対応してゆき、最終目的として患者さんの満足度を上げて患者さんに責任を持つことであるといった講演であった。

血液内科、心臓血管センターでのチーム医療では、CDTM（共同薬物治療管理）により癌患者において、薬剤師による処方や薬剤の選択とモニタリングをすることによって処方が出るまでの時間の短縮を図る取り組みがされていた。さらに薬物治療を行う際に根拠としているガイドラインやエビデンスの作成も行われている。また心臓血管センターにおけるチーム医療では、ICU、CCU で薬剤師が感染管理と栄養面に介入している。薬剤師は毎朝医師の回診に同行して患者の状態を把握し、夕方には薬剤師だけによる薬剤師回診を行うことによって患者の再評価を行い、薬剤師が治療の指標となる検査をオーダーし、必要であれば薬剤師が腹部エコーを撮っている。そこから得た情報により、薬物療法や栄養管理についてカルテに記入し薬剤師が看護師に指示を出している。総括としてチーム医療において大切なことは依頼されるのを待つのではなく、自ら積極的に薬物治療に介入することによってきめ細やかにフォローし最後まで責任を持つことであるといった内容でご講演頂いた。

## 病院薬剤師になって

姫路医療センター 富島 公介

「病院薬剤師ってどんな仕事をしているの？」時々そんな質問を耳にします。この質問に対してどのような答えを返されるのでしょうか。

病院薬剤師とは何をする職業なのか、自分は病院薬剤師として何ができるのか。この答えを探すことが現在の私の課題です。

近年病院薬剤師の業務は多種多様の広がりを見せ、病院内でその必要性は確固たるものとなってきました。そんななか目指していた病院薬剤師になり、調剤や薬剤管理指導、業務、治験、DI、TDM、学会発表、学生実習等々多種多様の業務を経験し、学ぶ私にふと疑問が生まれました。

「これからの病院薬剤師は何が必要か」、「病院薬剤師とはどうあるべきか」、

「そもそも病院薬剤師って何をする仕事？」

そんな疑問を職場の先輩方にぶつけてみました。その答えは様々で、また色々な解釈がありました。中には「わからない、答えは毎年変わる」と言った先輩もいました。まさに十人十色。

なるほど、私は自分の中での病院薬剤師像がハッキリとしていなかった。

あの先輩のようになりたいという目標は持っていますが、私は私でありその先輩のコピーにはなれません。同じ本を読んでも感想が人によって違うように、病院薬剤師としての解釈も人それぞれなのだと思いました。

それは患者さん側からも言えることで、同じ薬剤師という資格をもった人間でも人物が違えば薬の説明の仕方や話し方が違い、ずいぶんと印象が変わると思います。

解釈の違いを意識するようになってから私は「私の病院薬剤師とは」の答えを探しています。そのためにもまずはしっかりとした基礎が必要であることを強く感じます。

薬剤師としての基礎作りをし、そこから自分なりにアレンジをして答えを探していく。

たくさん先輩方、後輩達を見て、たくさんの解釈に触れることにより自分の世界を広げています。

答えが出るのはいつになることやら……。何年先か、何十年先か、はたまた答えは出ないかもしれません。また答えを見つけても変わっていくかもしれません。それでも答えを探し続けることこそが自分を磨く術になると考えています。これからも病院薬剤師は何をする仕事なのかを自問自答し、自己研鑽していくつもりです。

もしどこかでご一緒させてもらうことがあれば「病院薬剤師とは何をする職業ですか？」とお聞きするかもしれません。そのときは是非先生方の「答え」をお聞かせ願えたらと思います。

## 病院薬剤師になって ー4 カ月経って思うことー

神戸医療センター 白川 祥実

私は今年4月から神戸医療センターに勤務させていただいています。私が薬剤師という仕事に興味を持ったきっかけは、高校生の時にみた病院での祖母の薬物治療でした。様々な薬や輸液を投与されていました。その時はまだ薬に関する知識はほとんどなく、その薬はどのように決められ、患者にどのように効いているのかということに関心を持ちました。

実際に病院薬剤師となっても、まだまだわからないことや新たな発見が多いのですが、薬剤師という仕事は奥が深く、これからも様々な業務において、薬剤師として関わっていくことが可能な領域があると日々感じています。

今はいろいろなことを覚えたり、学んだりしている最中ですが、今後、様々な可能性を広げていくためにも、自分から積極的に知識を増やしていくことを怠らず、どうしてもわからない時は、まわりの方々に聞くことを心がけたいと思っています。病院は、患者さんを中心として薬剤師、医師、看護師、その他多くの医療スタッフが、ひとつのチームとして身近に集結しており、患者さんも他職種のスタッフも互いに、疑問があればすぐに聞きあうことができるというのは、非常に心強いことだと思います。その利点を十分に生かすには、やはり日頃から患者さんや他の医療スタッフとのコミュニケーションを大切にすることだと感じています。

働き出してもうすぐ半年となりますが、不安なことも沢山あります。しかし、病棟に赴き、患者さんの前に立てば、1人の薬剤師として見られます。精一杯の仕事をしなければ、元気になろうと一生懸命頑張っている患者さんに対して失礼になると思います。私は、大学や大学院に通っていた時、研究や部活動に没頭し、どうすれば最も良い成果を出せるかを考え、追究してきました。病院薬剤師としても、どうすれば患者さんの治療の向上につながるかをしっかり考え、行動していきたいと思っています。

まだまだ知識や経験に関しては、半人前どころか、5分の1人前ほどですが、新人という名に甘えず、今の自分にできる最大限の役割を果たしていきたいと考えています。今日私は患者さんのために何ができたでしょうか？これに対して、毎日小さなことでも答えが出し続けることのできる薬剤師になれるように、しっかり努力して前向きに頑張っていきたいと思っています。これからもご指導の程よろしく申し上げます。

## 東和薬品株式会社大阪工場見学会の報告

和歌山病院 南山 啓吾

薬品管理小委員会の今年度の活動のひとつとして、東和薬品大阪工場の見学会を開催したので報告致します。



東和薬品株式会社 大阪工場 外観

見学会は平成 23 年 6 月 4 日（土）に行われ、大阪府門真市にある東和薬品大阪工場を 13 名の会員が訪問しました。

今、世間では工場見学が人気で食品や飲料水をはじめいろいろな工場で見学することが出来ます。私もビール工場などを見学して楽しんだことがあります。今回は、普段はあまり見学することが出来ない製薬会社の工場見学とのことであり大いに期待して参加させていただきました。

工場の入口は二重の自動ドアとなっており、片方ずつしかドアが開かない構造となりました。当日のスケジュールは、①工場長より工場概要についての説明及び DVD による製造工程の説明、②工場見学、③RACTAB（東和薬品の口腔内崩壊錠）についてと質疑応答でした。

大阪工場は、ジェネリックの認知度を高めることを目的として、魅せる工場（見学コースを有する工場）をコンセプトとして設立されていて、着替えることなく私服のまま見学することができました。



工場概要等の説明

大阪工場は全国に 3 か所ある工場のなかでも内服製剤の新製品導入工場としての機能を持ち、効率的で高度な製造環境や製品の安定供給を確保しながらフィルムコート錠、糖衣錠を中心とした一般製剤（104 品目）を年間約 15 億錠（H22 年度）生産しており、その数は年々増加しているとのことでした。

空調システムは清浄度クラス 100000、温度湿度は 18～26℃、35～60%に保たれていました。また、建屋自体が陽圧となっており、室間差圧が 4 グレードに分けて

あり、各作業室に比べ清浄廊下を陽圧にすることで異種製品のクロスコンタミネーションを防止出来るとのこと、人もなるべく作業室に入らずに作業出来るようコンピュータ管

理を厳重にされていました。



製造ラインの見学

製造工程は造粒、秤量、混合、打錠、コーティング、印刷、外観検査、包装の各工程を見学できました。

当日はエペル錠の包装工程を見学することができ、工程ごとに決められた厳格な検査が行われていることが確認できました。

最後に行われた質疑応答では、委員より製造委託について質問があり、工場長より状況の説明が行われましたが、東和薬品としては製造委託に頼るのではなく、自社製品の研究

開発に重点を置いていると自信をもって説明されていたのが印象的でした。また、震災対応についても3ヶ月分の在庫を有しており、震災などで製造できなくなった時は、他の2工場で3ヶ月以内に生産を再開させ安定供給をすることが可能であるとのことでした。

今回、初めて東和薬品の工場を見学させていただいて、医薬品製造に関する知識、また、ジェネリック医薬品に対する理解を深める良い機会になりました。



今回の見学会に参加された先生方です。(敬称略・五十音順)  
浅川 (近中)、井上 (南和歌山)、岩重 (紫香楽)、甲斐 (宇多野)、河島 (姫路)、川端 (刀根山)、栞原 (南京都)、小林 (姫路)、小林 (京都)、田中 (青野原)、中尾 (京都)、早川 (大阪)、南山 (和歌山) 以上13名。

## 地区会報告

### 大阪南部地区

日 時 : 平成 23 年 5 月 27 日(金) 19 : 00~22 : 00

開催場所 : 天王寺

参加人数 : 会員数 67 名中 39 名参加  
(大阪医療センター : 23 名、大阪南医療センター : 10 名、  
近畿中央胸部疾患センター : 6 名)

内 容 :

1. 新地区理事、新会員紹介
2. 大阪南部地区会活動について
3. 6 年制実務実習生の受け入れについて
4. 親睦会

記 覚野 律

### 大阪北部・兵庫東部地区

日 時 : 平成 23 年 6 月 17 日(金) 19 : 00~21 : 30

開催場所 : 梅田

参加人数 : 会員数 48 名中 17 名参加  
(国立循環器病研究センター : 8 名、刀根山病院 3 名、兵庫中央病院 6 名)

内 容 :

1. 新会員紹介
2. 各施設からの現状報告
3. その他
4. 親睦会

記 杉山 喜久

## 編集後記

♪ ワールドカップ “なでしこジャパン” の快挙は、未曾有の災害をはじめ暗いニュースが多かった日本に、元気と勇気を与えてくれました。サッカーに詳しくない方でも早朝からTV観戦された方が多かったのではないのでしょうか。

♪ なでしこジャパンのチームの結束力には本当に驚きました。メンバー達が見せる笑顔はこの結束力、信頼関係なのだろうと感じました。

♪ 個人の力を最大限に発揮し、チームでの役割を全力で担うことが、その強さにつながるのだと思いました。チーム医療においてもとても学ぶところが多いように思います。

♪ 今月号では薬事専門職挨拶、科長提言、薬剤科紹介、工場見学報告、2名の新採用薬剤師の先生方の病院薬剤師になっての思いなど、いつものように充実した読みごたえのある内容となっています。どうぞ最後まで御熟読ください。

(T. M)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌

第二十七号 平成 23 年 8 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤科内)

発行人 会長 小森 勝也 (大阪医療)

編集 広報担当理事 廣畑 和弘 (刀根山)

広報委員 石塚 正行 (大阪南医療) 玉田 太志 (刀根山)

本田 富得 (神戸医療) 朴井 三矢 (京都医療)

中西 彩子 (大阪南医療) 東 さやか (大阪医療)

奥田 直之 (大阪医療) 宮部 貴識 (近畿中央)